

〔研究ノート〕

Gateway Community 考

—中世ヨーロッパ経済史への一視点—

光 畑 一 司

ヨーロッパ中世初期経済史は、かつてはピレンヌ・テーゼをめぐって論争が展開された。この論争の主眼点は、イスラム勢力の進出に伴うヨーロッパへの影響をどのように評価するか、ということであり、従って経済の変化の指標とみられる7世紀の金本位制から銀本位制への移行も、イスラムをはじめとする、外部からの影響を重視した解釈が行われた。しかしながら古銭学をはじめとする様々な発掘の成果があらわれるについて、外部からの影響による変化ではなく、ヨーロッパ内部の変化にその原因を求めようとする主張があらわれてきた。最近の、考古学その他の隣接諸科学の発展によって可能になった。これまで以上に詳細な考察は、この傾向を強めているようである。① その中でも特に注目されるのが、経済人類学の援用である。この小稿では、まず経済人類学と歴史学の関連について述べ（Ⅰ）、つづいて、K・G・ハースの提案した gateway community (主要な交易ルート沿いのできる共同体)のモデルを（Ⅱ）、最後にこのモデルをヨーロッパ中世初期の社会的経済的变化に適用して解釈したR・ホッジスの説（Ⅲ）を紹介し、ヨーロッパ中世初期経済史の一つのポイントである金本位制から銀本位制への移行の意味を探ってみたい。

（Ⅰ）

経済人類学は、1920年代に、マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』^②やM・モス『贈与論』^③によってはじまったとされているが、その後原始経済をどう見るかをめぐって論争が展開され、原始経済は現在の経済よりも交易の規模が小さく、その構造も複雑ではないので、ミクロ経済学できると主張する Formalist (形式主義者)に対し、原始経済は近代市場主義経済とは異なった体系をもつので、新しい解釈の枠組みをつくる必要があると主張した Substantivist (実在主義者)の主張が主流となった。④ そしてK・ポランニ、M・サーリンズらが贈与、⑤ 互酬性、再分配などの概念を使って原始経済を分析し、そのような

社会においては、経済は社会関係の中に深く埋め込まれている（つまり両者は深く互いにかかわりあっている）と主張するにいたったのである。

一方、歴史学の分野では、グレヴィチがモス『贈与論』等の成果をふまえて、ヨーロッパ中世における社会関係は近代のそれとは異なると考えられること、特に中世初期の研究には、近代社会とではなく前階級的な社会構造、いわゆる原始的な社会的諸構造と対照すべきこと、そしてこのモデルを提供してくれるのが文化人類学であることを主張した^⑩。またP・グリアソンは、7～8世紀のアングロ・サクソン社会における貨幣の断絶期に、物々交換や親族間の贈与交換がおこなわれたこと、また銀貨の使用が交易を容易にし、資本の貯蔵と蓄積を可能にした事を主張した^⑪。そしてL・K・リトルは、6世紀のブルグンド王グントラムと、10世紀のオルレアン司教の、偶発的な金の発見に対する反応のちがいのうちに、各々の社会が持つ経済的な背景の対照を示し、その金で装飾品をつくらせた前者の場合を「贈与経済 gift-economy」と名づけている。そしてそのようなゲルマン民族大移動後の経済については、人類学からのアプローチが有効であると主張している^⑫。

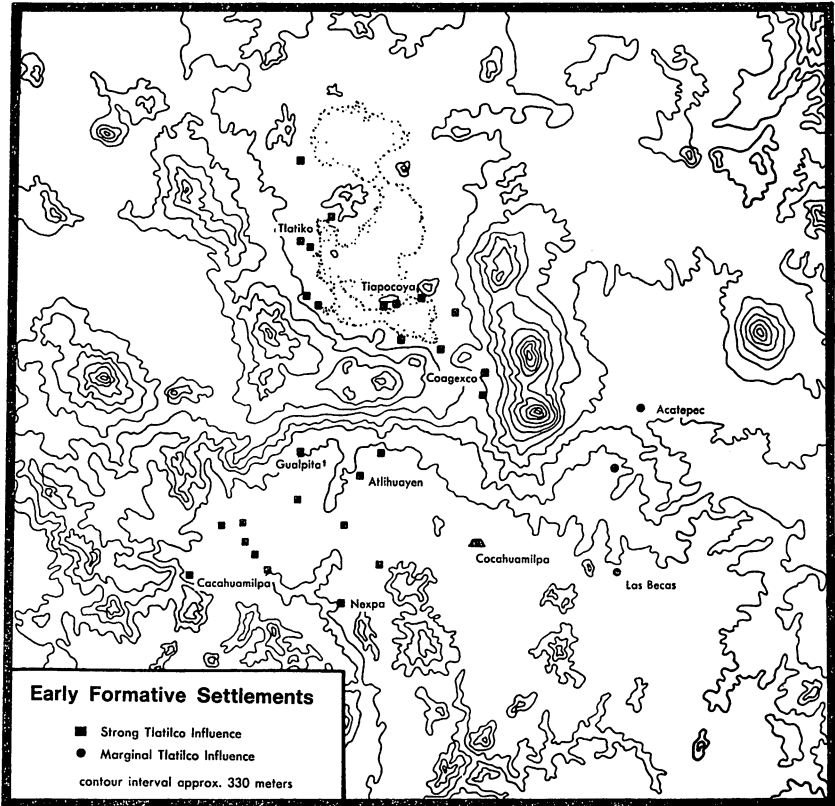
このように人類学の成果は、ヨーロッパ中世史の研究に生かされているようであるが、ここで紹介する gateway community のモデルは、中央メキシコの初期・中期形成期（B.C.1200～B.C.500）〔1図、3図参照〕における遺跡の調査を通じて、K・G・ハースが交易制度の成長に伴う社会の変化について示したモデルであり、その考え方をR・ホッジスがヨーロッパ中世初期の社会に適用したものである^⑬。

(II)

それでは gateway community とは何か。その概略を知るために、ハース『地域間交易と先史時代の gateway community』の冒頭から引用してみよう^⑭。

「日用品の地域間交易は、複合社会の形成において重要であったようである。互酬経済から再分配経済への移行は、長距離交易の制度化を伴う。gateway community とよばれる重要な定住地が、自然を利用した取引ルート沿いの、日用品の重要な集散地に出現した。中央アメリカの形成期（Formative Mesoamerica 3図参照）において、長距離交易や地域経済を市場中心地の出現と結びつける一つのモデルが構成される。gateway community のモデルは、中心地の公式よりも有効に初期の地域間の交易を描く。このモデルは、メキシコのモロロスにおけるカルカトジンゴ（calcatzingo 1図2図参照）から集められたデータに照らして調査されるが、この共同体は、中央アメリカの形成期（3図参照）の前半に、地方交易と長距離交易の両方において重要な位置を維持していた。」

さて中央アメリカでは、異なった地域に出現した経済制度によって、B.C.2000年期までには階層化の過程がはじまっており、B.C.1400年までには初期の交通網が、グルフ沿岸、チアパスの太平洋沿岸、オークサカ河谷と中央メキシコ高地に存在した。そしてこれ

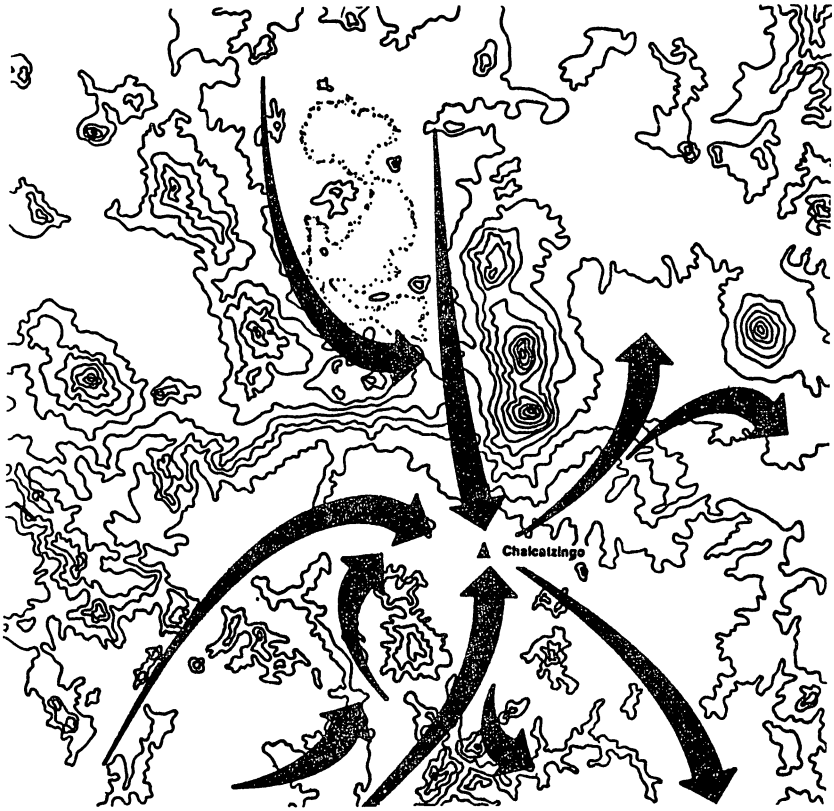


1 図 中央メキシコ高地における初期形成期の遺跡

らの交易網は、各々の限定された小地域の中で、地方的商品の動きを扱ったようである。

しかしながら B.C.1400 年以後になると地域間の交易が見られるようになる。未加工・加工の日用品・非日用品が長距離を動き、その中には黒曜石・ヒスイ・トルコ石などの稀少品も含まれていた。そして中期形成期のはじめには、仲介交易と長距離交易が中央アメリカの多くの地域で強化されており、同期のカルカトジンゴ B 層（3 図参照）の急速な発展は、中央メキシコとの *gateway community* としての新しい役割を反映している。

ところで、これらの解釈について、彼はまず永続的な指導権を伴う階層社会の出現が、資源の生産と再分配による支配と密接に関係することから次のように考える。すなわち、長距離交易の増加が初期の首長社会の出現と共に起こったこと、交易が社会の階層化を促進する重要な要素であったこと（特に原料の交易）、そして初期形成期の間、支配階層がその地位を守るために必要とした商品（以後これを特権商品とよぶ）が異なった社会にある高い階層の人々を結びつけ、儀礼的なネットワークを通じてそれらが交換されたので、



2 図 中央メキシコ高地における伝達の自然ルート

従って階層化された個人の数が増加すると、階層を示すしるしとしての異国の商品の要求も増えたということである。

また中央アメリカの初期形成期には、日用品は異なった地域に位置した取引相手との間で、互酬交換を通じて動いたようであるが、商品の供給が予知できないという問題があった。そのため首長社会になると、首長は資源の蓄積・貯蔵・再分配などの管理に責任を負うようになり、従って日用品の流れの変動は首長の地位の転覆さえも導くことがあったために、交易の制度化がすすめられたのである。

この交易の制度化は、新しく獲得した商品を古いネットワークを通じて地方に割りあてたために、重要な日用品は、異国的な商品と共に地域間で動き、これらの商品の収集・準備・移動が複雑になるにつれて、交易制度を改良する必要がでてきた。こうして地域間交易の強化が新しい形の社会経済組織の出現を促し、交易の専門家があらわれ、地域間交易の増加によって繁栄する交易ルート沿いに、ある共同体がおかれるようになる。これが

YEARS B.C.	MAJOR PERIODS		MORELOS		VALLEY OF MEXICO
600	MIDDLE	FORMATIVE	CHALCATZINGO	PHASE C	LA PASTORA
				PHASE B	EL ARBOLILLO
1000	EARLY	FORMATIVE	CHALCATZINGO	PHASE A late	MANANTIAL
				PHASE A early	AYOTLA
1400				SAN PABLO	NEVADA
				LA JUANA	

3 図 中央メキシコの年代相

gateway community である。

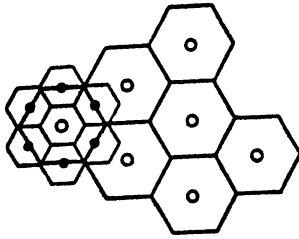
この gateway community は、取引の増加に対応するものか、あるいは人がまばらであった辺境への定住に対応するものとして発展し、次のようなところおかれた。

- ・ 鉱物・農業・工業の高い生産力をもつ地域間の、重要な通路や自然を利用した伝達のルート沿い。
- ・ 稀少品の需要や供給が高かったところ。
- ・ 異なった技術をもつ共同体の接点。
- ・ 社会政治的複合体の異なったレベルの接点。

そしてこの共同体の機能は、交易を通じて日用品の需要を満足させることであった。

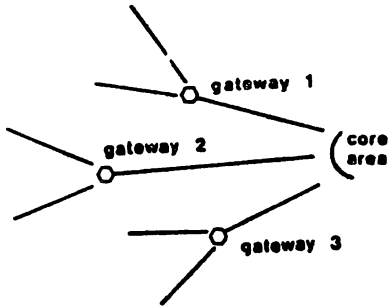
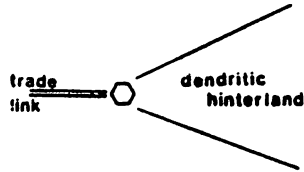
また gateway community は、円あるいは六角形の対称的にまとまったサービス・エリアの中心に存在する定住地である isolated state や central place に対して、その後背地の一方の側に存在した（4 図参照）。これらの後背地は細長い扇のようであり、各々の gateway community から外へ向かっており、個々の共同体は直線的な、あるいは樹枝状の (dendritic) 市場網を通じて gateway community と結びつけられていた。^⑧

ところでこの樹枝状のネットワークは多くの原始経済の特徴であり、人口がまばらで輸送が困難か未発達なところ、そしてその経済が強い外的志向を持つところでよく見られる。そして樹枝状の定住様式は、gateway community とその後背地を結びつける最も有効な構造であり、gateway community は輸送の費用を最少限に保つために重要であっ



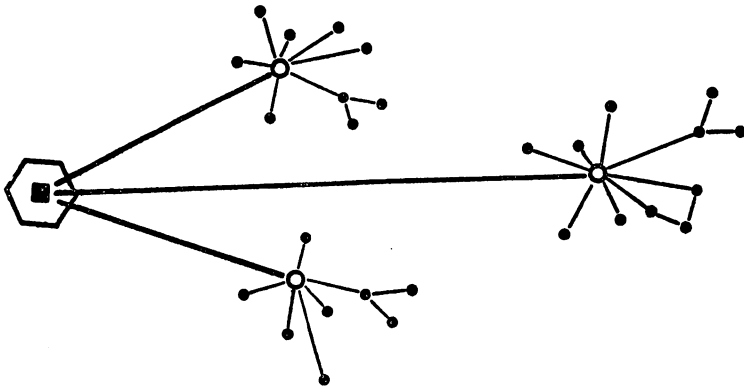
A. The Central Place Hierarchy

B. The Gateway Community



C. The Multiple Gateway Case

4 図 Central Place と Gateway Community hierarchies の比較



5 図 樹枝状の市場網

た。

このように **gateway community** は安定した供給のラインを保ったが、輸送力が低かったために経済の変化に対応できなかった。そしてその後背地が広がって他の地域との競争がおこった時、その広がった後背地のために、これまでの **gateway community** に代わって中心地が機能しはじめ、日用品の縦断的な動きを弱めた。そして取引の増加と共におこった。より大きな経済的競争を勝ちぬくためには、今まで以上に大きな権威をもった社会政治的権力が必要となった。そしてその権力を握った者が中心をおさえていったのである。^⑩

(III)

以上に見てきたような **gateway community** のモデルをヨーロッパ中世初期の歴史に適用したのが R・ホッジス『**gateway community** の改革、その社会的経済的関係』である。この論文で、彼は **gateway community** と政治権力との関係を論じているが、その関係は北海・バルト海沿岸のエンフォリア（貿易港）の発掘が進んだ結果可能になったもので、3段階にわかれ（A・B・C段階と区別）、その特徴としてB段階の計画された性格をあげている（6図参照）。

彼はまず、この **gateway community** は、ローマ以後では7世紀に、フランス、西ドイツ、低地地方を含むに至った王国、つまりフランク王国が、その王国の境界をこえて、より小さくより複雑でない領域（国家）、すなわちアングロ・サクソンの七王国、アイルランド、スカンジナビア等と交易をはじめた時におこった、と主張した。そしてフランク王国を第一地域、その周辺の地域を第二地域とすれば、第一地域と第二地域の接点に **gateway community** は発生し、第一地域は第二地域から原料を得るために、第二地域は第一地域との関係によって第二地域内の支配階層の地位を強化するためにこの交易関係が使われた、と主張した。

そして先述したように、エンフォリアの発掘は、この **gateway community** が3段階を経て展開したことを示しているが、彼はそれを次のように解釈する。

A段階は、王（首長）の直接的で不規則な交易に代わる、より規則的な長距離交易がおこなわれた結果であり、**gateway community** の設置は、王（首長）がその共同体を安定させた後に、共同体の境界に外国人の足場としてつくったものであること、そしてその足場は非永続的なものであり、同時代の村落定住地等と大して規模がちがわなかったことを示している。

これに対し、B段階では第一地域と第二地域間の交易が非常に増加したことを示しており、このことはおそらく第二地域において、王（首長）が高い権威をもってその地域を社会的政治的に統合した結果のようである。^⑪

このB段階の **gateway community** の最も広く調査された例は、ライン河口のドレストット^⑫、南サザンプトンのハムウィフ^⑬、イースト・アングリアのイプスウィチ^⑭、北ドイツのハイタブ^⑮である（7図参照）。これらは複雑な街路のパターンをもち、（ドレストット以

外は) 格子網の上におかれている (6 図参照)、そして土着の商人だけでなく外国の商人によっても使われた住居や倉庫を含んでおり、同時代の他の定住地と比べ、5~10倍の広さを有したことが示されている。彼はB段階のこれらの用地が、近代市場以前の交易の最大化を示すもので、そして商品の樹枝状のネットワークによる流れが輸入品などから明らかであると主張する。

これらの A・B 段階に比べ、C 段階の遺跡は、C・スミスによって“solar central system”^⑤と名づけられたように、非常に異なった機能を持ち、従って定住の連続性にもかかわらず gateway community とは、厳密に言えば異なるものであった。

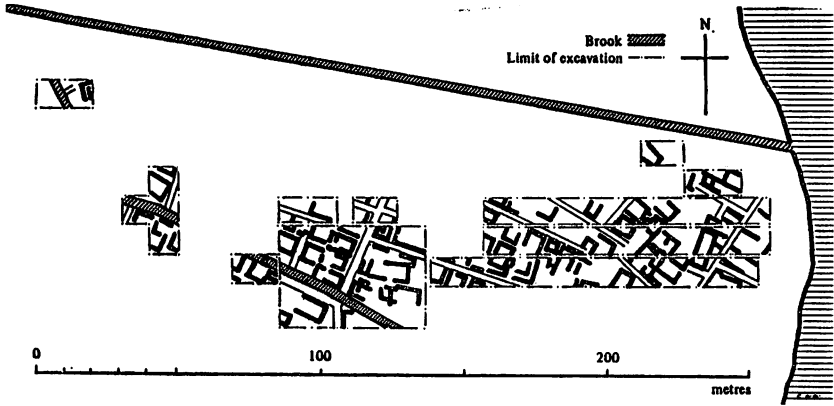
以上の解釈から、彼は A・B 段階の gateway community が、ローマ以後のヨーロッパにおける階層社会の変化の研究に適したものであり、一方 C 段階のそれは競合市場の出現と結びついた。中世国家の形成に付随したものであることを示し、そして地方化された経済活動を維持しながら、階層社会から中世国家の創設への移行の核となったのが、ローマ以後のこれらのエンフォリアの特徴であったことを主張したのである。

要約すると、支配領域を安定させた王(首長)は、その地位を保つために日用品、特権商品の交易の制度化とその支配をめざして、他の共同体との接点に gateway community をおいた(A段階)。従ってこの交易は、当初はきびしい支配をうけたが、交易量が増加するにつれて管理は困難となっていた(B段階)。そして gateway community は後背地の一方の側にあったために、交易量の増加に対応しきれず、その機能を失い、中心地がそれに代わった(C段階)。この結果、競合市場を伴う、より広くより複雑な社会的経済的制度があらわれた。第一地域ではシャルルマーニュ支配下のフランク王国が、第二地域ではオッフア支配下のマーシアがこれに相当する。従ってオッフア王によって鑄造されたペニ、ピピン・シャルルマーニュによって改革され、鑄造されたデナリウス等の銀貨は、それまで一部の支配階層の地位強化に対して、より広く複雑になった社会的経済的变化に対応するために、市場を通じての経済統制を試みて発行されたものであり、リトルの主張したところの、贈与経済に支配された首長国(chieftain)から、新しい制度をもつ中世国家への変化を示す指標となるのではないだろうか。

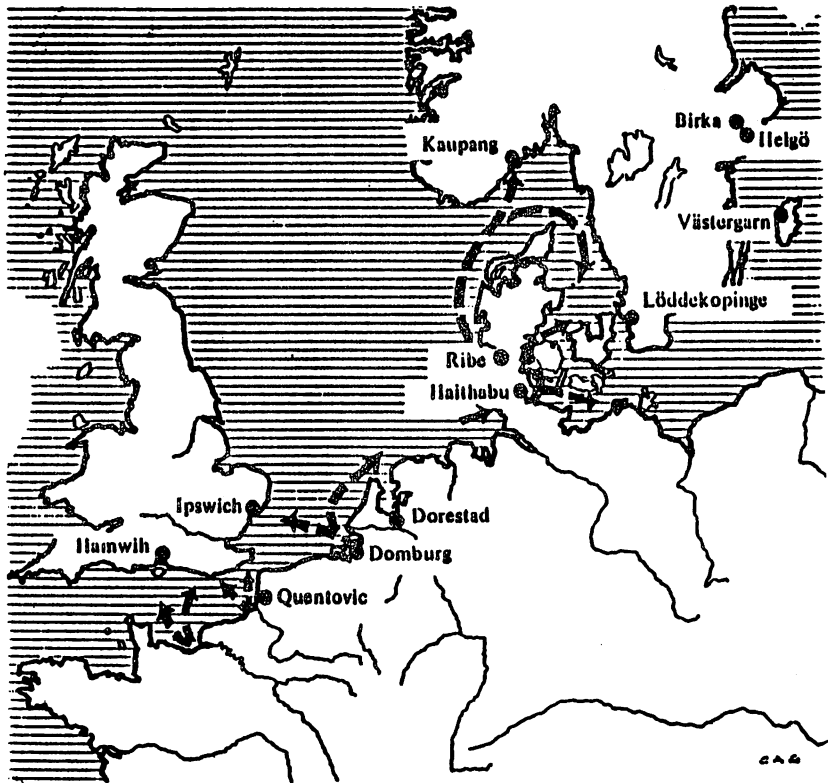
では最後にホッジスの論文の最後の部分を引用して、この小稿を閉じたい。

「結論を言えば、歴史的に限られた空間のデータによる比較研究は、いづれか詳細に階層社会における変化を理解する助けとなるであろう。それは発生と変化について、直線的にその成長をみる。時としてあいまいな概念よりも、正確に、それに代わるべき考古学的モデルを明確に表わすことができる。(アダム 1975)。

gateway community は最も容易に発見される遺跡であり、2つの社会政治的に異なる地域の商品と輸送についての、考古学的にユニークな視点を提供する。さらにこの遺跡における変革は、生産の手段を最少化する生計段階から政治的にその手段を最大化する中世初期の移行を示すために使える主な示唆の一つである(アール 1977)。これらの中心の創設と発展は、従って中世ヨーロッパ国家の誕生を導く、長期間の社会的変化を観察する機会を与える。」



6 図 ハイタブにおける街路の格子状の計画



7 図 西ヨーロッパにおける7～10世紀の主な gateway community の図

注

- ① ピレンヌ・テーゼについては、ピレンヌ（佐々木克巳，中村広訳，増田四郎監修）『ヨーロッパ経済の誕生』〔創文社 名著翻訳叢書 1960〕，ピレンヌ（佐々木克巳訳）『中世都市』〔創文社歴史叢書 1970〕を参照。彼の主張によれば，ヨーロッパ世界の誕生を促したものはイスラムの進展によるヨーロッパの地中海からの分離であった。
- ② ピレンヌをめぐる論争については，ピレンヌ他（佐々木克巳編訳）『古代から中世へ』〔創文社歴史叢書 1975〕，森本芳樹『西欧中世 経済形成過程の諸問題』〔木鐸社 1978〕。
- ③ 貨幣史の分野からこの主張をしたのが K. F. Morison “Numismatics and Carolingian trade : a critique of evidence”〔Speculum Vol. 38. pp.403-32, 1963〕。
- ④ これらの成果をまとめて，中世国家の形成過程を構成したのが，R. Hodges, “Dark Age Economics : The origin of town and trade A.D. 600-1000”〔London 1982〕である。
- ⑤ マリノフキー（寺田和夫，増田義郎訳）『西太平洋の遠洋航海者』（世界の名著71 中央公論社 1980）。
- ⑥ M・モス『贈与論』（山口俊夫他訳『社会学と人類学Ⅰ』〔弘文堂 1973〕。
- ⑦ Hodges, op. cit. pp.13-14 また経済人類学の流れや訳語については 栗本慎一郎『経済人類学』pp.17-38.
- ⑧ K・ポランニー（玉野井芳郎，他訳）『人間の経済Ⅰ・Ⅱ』〔岩波現代選書 47, 48 岩波書店 1980〕。
- ⑨ M・サーリンズ（山田昶訳）『石器時代の経済学』〔法政大学出版局 1984〕。
- ⑩ A・グレヴィチ『初期中世のスカンジナビア人たちのもとにおける富と贈与』〔福富正実編訳『初期封建制度論争』創樹社 1982所収〕。
- ⑪ P.Grierson, “La fonction sociale de la monnaie en Angleterre aux Viie-Viiiie Siecles” (in Settimane di studio del centro italiano di studi Soll’alto medioevo VIII : Moneta e scambi nell’alto Medioevo 1961 spoletto).
- ⑫ L.K. Little, “Religious Poverty and the Profit Economy in Medieval Europe” (New York 1978).
- ⑬ K.G. Hirth, “Interregional Trade and the Formation of Prehistoric Gateway Communities”〔American Antiquity Vol.43 pp.34-45 1978〕
- ⑭ R-Hodges, “The evolution of gateway communities : their socio-economic implications”〔in C,Renfrew etc. (ed.), “Rank. Resource and Exchange” 1982 Cambridge pp.177-122〕。
- ⑮ Hirth, op. cit. p.34.
- ⑯ T・アールは，再分配がエリートを維持するための資源の獲得に必要な支配機構であったことを主張している。(Hodges, op. cit. p.118)。
- ⑰ 3 図参照。
- ⑱ R-Hodges, “Dark Age Economics,” p.16.
- ⑲ カルカトジンゴでは，B. C. 500年頃に重要な gateway community としての機能を

停止しており、ゴルフ沿岸やブエブラ河谷との長距離交易が中止された。そしてこの時に、地域的な再分配についての、より大きく複雑になった制度からくる。今まで以上に大きな競争がおこったのである。Hirth, op. cit.

- ⑳ R.Hodges, "The evolution of gateway community."
- ㉑ 例えばイングランドにおいてこの権威を代表するのがマーシア王オッフアであり、彼とシャルルマーニュとの間には広い交易関係があったことが、両者の間に見られる貨幣の並行現象などから示されている。青山吉信『イギリス封建王制の成立過程』pp. 97-108.
- ㉒ R.Hodges, "Dark Age Economics," pp.75-77.
- ㉓ R.Hodges, op. cit. pp.67-69.
- ㉔ R.Hodges, op. cit. pp.78-79.
- ㉕ R.Hodges, op. cit. pp.16-17.
- ㉖ 9世紀には市場の重要性が高まったようであり、シャルルマーニュは『ヴィラについて』のカピトラリアの中で、荘園の執事に、その荘園で働く者が市場で時間を浪費しないよう監視すべきことを命じている。またシャルル禿頭王は、祖父のシャルルマーニュの時代にできた市場、父のルイ敬度王の時代にできた市場、彼の時代にできた市場を区別するべ調査を命じている。そしてシャルルマーニュからシャルル禿頭王にかけての時代(794年のフランクフルトのカピトラリアから864年のピートルの勅令まで)は貨幣に関する政策が集中している時期であり、その政策は貨幣と市場の強い結びつきを示すものであった。この問題については、J. Lafaurie, "The novi denarii and forgery in the ninth century" [in C.N.L Brooke, B.H.I.H. Stewart, J.G.Pollard, T. R.Volk (ed.) STUDIES IN NUMISMATIC METHOD. Presented to Philip Grierson pp. 137-146] において詳細に研究されており、それによれば、当時の貨幣政策は偽造の取りしまりと新貨幣の受取拒否への対応に重点がおかれており、その両方について市場は大きな意味をもっていた。

[図版出典]

- 1 図 Hirth, "Interregional Trade and the Formation of Prehistoric Gateway communities" (American Antiquity Vol. 43.1978) p.40.
- 2 図 同, p.41.
- 3 図 同, p.36.
- 4 図 同, p.39.
- 5 図 同, p.38.
- 6. 7 図 Hodges, "The evolution of gateway communities," p.121.

